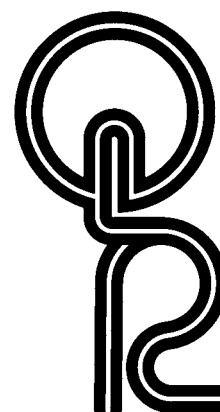


QR Newsletter



第四紀通信

Vol. 31 No.1, 2024



整備された港川遺跡。かつて石灰岩の採石場であった断崖中央に、1970年代に約2万年前の港川人の化石骨を産出したフィッシャーが見える（2020年 海部陽介撮影）。

Vol. 31 No. 1

February 1, 2024

「令和6年能登半島地震」会長談話.....2	2023年大会プレ巡検報告.....6
学会賞・学術賞受賞記念講演会案内..2	領域3主催巡検報告.....8
2024年大会案内（第2報）.....3	評議員会案内.....10
JpGU2024案内（第2報）.....3	執行部会議事録.....10
学会賞・論文賞候補者等推薦のお願い （再掲）.....5	会員消息.....12

◆「令和6年能登半島地震」に関する会長談話

新年を迎えた本年1月1日午後4時10分ごろに発生した石川県能登半島を震源とするマグニチュード7.6の「令和6年能登半島地震」により、犠牲になられた方々に心から哀悼の意を捧げ、ご冥福をお祈りします。同時に、被災者の皆様におかれましては、一日も早く日常生活を取り戻されることをお祈りいたします。

地震発生による地震動、地殻変動、津波、液状化、斜面崩壊等の予測やそれによる災害軽減には、当該地域の地形・地質を通じて、長期にわたる地震発生やそれに関わる各種の自然現象の理解、また災害履歴の復元が不可欠です。日本第四紀学会は、このような災害の予測や災害軽減に関わる研究に携わる多くの会員を有しています。本学会としては、会員による地形・地質学からテクトニクス、工学的研究をサポートし、絶えず学術的進展を促し、得られた知見により将来の自然災害の予測と災害軽減をめざします。また、その実行に際しては常に社会と連携する所存です。

「令和6年能登半島地震」に関する調査報告や研究成果、とくに会員によるものにつきましては学会公式ウェブサイトや集会活動を通じて随時発信してまいります。

令和6年1月21日
日本第四紀学会
会長 鈴木毅彦

◆2023年日本第四紀学会 学会賞・学術賞受賞記念講演会のお知らせ

期 日：2024年2月17日（土）9:30～12:30

参加方法：Zoomによるオンライン講演会、無料（非会員の方でも参加できます）

申し込み方法：以下のリンクにある申込みフォームから、2月16日（金）までに事前登録を行ってください。

登録後、ミーティング参加に関する情報の確認メールが届きます。

https://us06web.zoom.us/meeting/register/tZErde6prz8rHNC6mwFR0mGG-uoVaMjET_Vv



Zoom 事前登録 QR コード

プログラム：

- 9:30～9:35 開会挨拶
- 9:35～10:25 学会賞受賞講演 兵頭政幸会員「数十～数百年スケールの地磁気逆転・気候層序」
- 10:25～10:35 休憩
- 10:35～11:25 学術賞受賞講演 池原 実会員「南大洋の古海洋変動研究の成果と展望」
- 11:25～11:35 休憩
- 11:35～12:25 学術賞受賞講演 堀 和明会員「完新世における沖積平野の地形発達と堆積システムの変化」
- 12:25～12:30 閉会挨拶

◆日本第四紀学会 2024年大会案内(第2報)

日本第四紀学会 2024年大会は、一般研究発表(口頭およびポスター)、シンポジウム、専門巡検を中心に、東北大学青葉山キャンパスを会場として開催します。ただし、今後の社会状況によっては、一部変更・中止になることがあります。大会の内容や申込手続きについての詳細は、次号以降の第四紀通信、学会ホームページなどでお知らせします。

日程：2024年8月29日(木)～9月2日(月)

8月29日(木) アウトリーチ巡検「仙台市内の地形散策」、評議員会

8月30日(金) 一般研究発表(口頭およびポスター)

8月31日(土) 一般研究発表(口頭およびポスター)、総会(ハイブリッド形式)、懇親会

9月1日(日) シンポジウム「東北の自然災害と第四紀学：最近の研究成果とこれから」(公開/ハイブリッド形式)

9月2日(月) 専門巡検「栗駒山の火山活動と岩手・宮城内陸地震」

開催場所：東北大学青葉山キャンパス(宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉、最寄駅は仙台地下鉄東西線 青葉山駅)

開催方法：完全対面方式(一部除く)を基本とします。今後の社会状況次第では完全オンライン方式に移行する場合があります。

大会実行委員長：堀 和明(東北大)

実行委員：遠田晋次、石澤堯史、高橋尚志、井龍康文、浅海竜司、山田 努(東北大)、伊藤晶文、目代邦康(東北学院大)、西城 潔(宮城教育大)、池原 実(高知大・行事委員長)ほか

《大会実行委員長から会員の皆様へメッセージ》

仙台では、1977年2月に斎藤報恩会自然史博物館、1988年8月に東北大学教養部で第四紀学会の大会が開催されており、今回の開催は36年ぶりとなります。会場は東北大学青葉山キャンパスです。キャンパスへのアクセスは、2015年の地下鉄東西線の開業により改善されました。また、青葉山駅の西から南に広がる青葉山新キャンパスは、かつてゴルフ場として利用されていましたが、災害科学国際研究所の設立、雨宮キャンパスからの農学部の移転、次世代放射光施設「NanoTerasu(ナノテラス)」の建設などが進み、大きく変貌しています。こうした変化が進む一方で、青葉山やその周辺には、竜の口溪谷や広瀬川沿いの河岸段丘、青葉の森緑地、金剛沢治山の森に加え、東北大学植物園や理学部自然史標本館といった、第四紀研究や自然史に関係した見どころが多数存在します。2024年大会へのみなさまのご参加を心よりお待ちしております。

◆日本地球惑星科学連合 2024年大会のお知らせ(第2報)

日本地球惑星科学連合 2024年大会(JpGU2024)は、2024年5月26日(日)から5月31日(金)までの6日間、現地開催(会場：幕張メッセ)とオンライン開催をミックスしたハイブリッド方式で開催されます。JpGU2024でも昨年に引き続き、大会参加予定のすべての皆様に対して、大会参加プラットフォーム「Confit」が準備されます。「Confit」にログインすることで、セッション情報や発表情報・資料等が掲示されるとともに、タイムテーブル上のZoomリンクから各セッションに簡単にオンライン参加することができます。

【日本第四紀学会の関わる学協会セッション】

H-QR05「第四紀：ヒトと環境系の時系列ダイナミクス」

口頭発表およびポスター発表のショートトーク：5月30日(木)のAM1-PM1

ポスター発表コアタイム：5月30日(木)のPM3

S-SS11「活断層と古地震」

口頭発表およびポスター発表のショートトーク：5月26日(日)のAM1-AM2
ポスター発表コアタイム：5月26日(日)のPM3

H-DS09「人間環境と災害リスク」

口頭発表およびポスター発表のショートトーク：5月27日(月)AM1-AM2
ポスター発表コアタイム：5月27日(月)PM3

U-03「人新世・第四紀の気候および水循環」

口頭発表およびポスター発表のショートトーク：5月28日(火)AM1-AM2
ポスター発表コアタイム：5月28日(火)PM3

A-HW22「流域圏生態系における物質輸送と循環：源流から沿岸海域まで」

口頭発表およびポスター発表のショートトーク：5月30日(木)のAM1-PM2
ポスター発表コアタイム：5月30日(木)のPM3

※それぞれの時間帯は以下のとおりです。

AM1：9:00-10:30、AM2：10:45-12:15、PM1：13:45-15:15、PM2：15:30-17:00、PM3：17:15-18:45

【発表の概要】

口頭発表

現地、あるいはオンラインから Zoom 経由によるライブ発表 (ハイブリッド)

ポスター発表

オンライン掲示が必須、現地での発表は任意

口頭発表枠内でフラッシュトークあり

オンラインポスターセッション (注 オンライン版コアタイムに相当) は実施せず

【今後の主な日程】

投稿受付 2024年1月16日(火)～2月15日(木) 17:00

投稿料 (8,800円) を2月15日(木) 17:00までに決済する必要があります。

投稿早期締切 2月1日(木) 23:59

早期投稿料 (6,600円) を適用するためには、2月1日 23:59までに決済を完了させて下さい。

最終投稿締切までは、投稿内容の修正が可能です。

3月7日(木) 14:00 大会参加受付開始

3月29日(金) 大会プログラム公開

4月18日(木) 23:59 発表者登録締切

発表される方は、この日までに参加登録を完了して下さい。

5月16日(木) 23:59 参加登録通常締切

この日までに参加登録を済ませた方は、5月17日の予稿公開と同時に Confit システムにログインができるようになります。

5月17日(金)～5月30日(木) 23:59 参加登録開設期間

5月17日以降に参加登録した場合、Confitへのログインは登録いただいた翌日9:00以降になります。現地参加される場合も来場前日に必ず大会参加登録をお済ませ下さい。

5月17日(金) 予稿PDF公開

5月26日(日)～31日(金) JpGU2024開催

※大会参加登録料は、一般 (JpGU、AGU、AOGS、EGU 各会員) 25,300円 (税込)、一般 (会員以外) は36,300円 (税込) です。大学院生・シニア (70歳以上の会員) はほぼ半額、小中高教員 (会員) ・学部生以下は無料となっています。なお、5月26日(日)に開催されるパブリックセッションは無料となっています。

【能登半島地震に関する緊急セッション】

2024年1月1日に発生した能登半島地震に関する緊急セッションの開催が検討されています。緊急セッションへの投稿は、上記投稿期間外 (投稿期間後) の予定です。

詳細および最新情報は、JpGU2024 ホームページ (http://www.jpгу.org/meeting_j2024/) をご確認ください。

◆ 2024 年日本第四紀学会学会賞・論文賞等の推薦のお願い（再掲）

「日本第四紀学会会則」の第3条(3)に基づき、2024年日本第四紀学会学会賞（以下、学会賞）、日本第四紀学会学術賞（学術賞）、日本第四紀学会若手学術賞（若手学術賞）並びに日本第四紀学会論文賞（論文賞）、日本第四紀学会奨励賞（奨励賞）の受賞候補者の推薦募集を行います。前3賞は学会賞選考委員会が会員からの推薦をもとに受賞候補者を選考し、後2賞は論文賞選考委員会が会員からの推薦を参考に受賞候補者を選考します。最終的に2024年6月頃に開催される評議員会で受賞者が決定され、2024年大会で表彰される予定です。会員のみならず多数のご推薦をお待ちしております。

なお、推薦にあたっては、学会HPの「会則・規則」のページ (<http://quaternary.jp/intro/rules/rules.html>) に掲載されている「日本第四紀学会顕彰規程」及び関連する内規をご参照の上、下記に従って推薦書類をお送り下さい。また、過去に受賞した会員は、論文賞を除き同じ賞を受賞することはできませんので、学会HPの「歴史」のページ (<http://quaternary.jp/intro/history.html>) で歴代受賞者を事前にご確認頂きますようお願い致します。

1. 各賞の概要と推薦書類の記入内容

■ 学会賞・学術賞

学会賞と学術賞は、第四紀学の発展に寄与する研究や学会活動への貢献を行ってきた会員に贈られる賞です。

学会賞：第四紀学の発展に貢献した顕著な業績や活動および学会活動に貢献した正会員に授与。学会における最高の賞。毎年若干名。

学術賞：第四紀学の発展に貢献した優れた学術業績をあげた正会員に授与。優れた編書、著書、論文などの一連の業績が対象。対象成果が複数の著書（研究グループ等を含む）によりなされた場合には、筆頭著者または代表者に授与。毎年若干名。

下記の情報を記した推薦書類を作成して、主要業績リストと併せて日本第四紀学会事務局へ送付して下さい。

- (1) 推薦者の氏名・所属・連絡先（自薦を含む）
- (2) 賞の名称
- (3) 候補者の氏名・所属・連絡先
- (4) 学会賞の場合には、具体的な業績や活動内容を示した受賞件名
学術賞の場合には、授賞の対象となる一連の業績を含めた受賞件名
- (5) 推薦理由（1000字以内）

■ 若手学術賞

若手学術賞は国際誌等における研究発表を通して第四紀学に貢献した優れた学術業績をあげた若手会員（2024年4月1日時点で39歳以下の会員）に授与されるものです。受賞者数は若干名で、受賞対象は過去2年間の国際誌等に掲載された論文（オンライン化された論文を含む）の筆頭著者とします。受賞者には副賞として5万円の奨学金が授与されます。

下記の情報を記した推薦書類を作成し、推薦する論文のPDFとともに学会事務局へ送付して下さい。

- (1) 推薦者の氏名・所属・連絡先（自薦を含む）
- (2) 賞の名称
- (3) 候補者の氏名・所属・連絡先
- (4) 推薦論文題目、論文が掲載された雑誌名および出版年月・巻・号・頁、またはオンラインの公開日及びDOI
- (5) 推薦理由（800字以内）

■ 論文賞・奨励賞

論文賞と奨励賞は、過去2年間に刊行された「第四紀研究」（第61巻第1号～第62巻第4号）に掲載された論文と著者が対象となります。ただし、編集委員会が非会員や学会賞・学術賞受賞者へ依頼した論文は対象外となります。

論文賞：会員である論文著者全員に授与。毎年1～2件程度。対象は掲載された全ての論文（短報を含む）。

奨励賞：会員である筆頭著者に授与。年齢は2024年4月1日時点で35歳以下。毎年1～2件程度。

受賞者には副賞として5万円の奨学金が授与されます。

推薦書類には下記の情報を記し、学会事務局へ送付して下さい。

- (1) 推薦者の氏名・所属・連絡先（自薦を含む）
- (2) 賞の名称
- (3) 論文賞の場合には、全著者名と推薦論文名
- (4) 奨励賞の場合には、候補者名と推薦論文名
- (5) 推薦理由（1000字以内）

2. 推薦書類の送付先

各賞の推薦書類は、郵送または電子メールで日本第四紀学会事務局へ送付して下さい。送付先の住所ならびに送信先のメールアドレスは下記のとおりです。

郵送：〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル

メールアドレス：daiyonki(at)shunkosha.com

郵送の場合の宛名は、学会賞・学術賞・若手学術賞の推薦書類については、「日本第四紀学会 学会賞選考委員会」宛、論文賞・奨励賞の推薦書類については「日本第四紀学会 論文賞選考委員会」宛として下さい。

電子メールの場合には、上記のそれぞれの宛先名を電子メールの件名に入力して送信して下さい。なお、PDF等のファイルを電子メールで送る場合、その容量が大きい場合（10MB以上）には、ファイル転送サービスを利用して下さい。

3. 提出期限

推薦書類の提出期限は、いずれも2024年2月29日（木）（必着）です。

◆ 2023年大会プレ巡検「狭山丘陵南部、玉川上水を巡る」

星住リベカ（自由学園中等科・高等科）

2023年8月31日（木）参加者：12名

この巡検は「狭山丘陵南部に広がる武蔵野台地における人の暮らし・知恵の痕跡をめぐる」という主旨で行われた。午前9時に西武拝島線武蔵砂川駅に集合。猛暑のため予定より短い行程に再設定された。午前中は玉川上水沿いを歩き、立川断層が作った地形などを観察し、午後は狭山丘陵南部の地形と上総層群に対比される狭山層などを観察した。

Stop1 玉川上水が残堀川を伏せ越している（逆サイホン工法）地点：玉川上水の全体像、歴史や明治期と大正期の地図を参照しながら、大正時代末期になぜ伏せ越しが行われることになったかなどの説明を受けた。

Stop3 金比羅山：周囲より高い小丘になっている金比羅山に登った。丘の上には金比羅神社と富士講の浅間神社の祠がある。「この小丘は河岸段丘の立川面に位置し人工的に造られた小丘と考えられている。江戸時代に玉川上水工事の残土置き場としたのか？しかし、他の玉川上水沿いにはこの

ような小丘が存在しないためこの説は違うかもしれない。水田開発時の残土か？または富士講として人々が丘を造ったのか？ということが考えられる」との説明があった。

Stop3.5 武蔵砂川駅東側の踏切付近：立川断層が西武拝島線を横切っているため、撓曲崖の下にあたる武蔵砂川駅の西側が低くなり、線路が高架になっていることを確認した。11時頃に市内循環バスに乗り武蔵村山市役所前で下車。近くにある地粉の小麦の「村山かてうどん」を扱っている「青柳」で昼食。「かてうどん」は、この地域の名物で魚介出汁のつけ汁に「かて（糧：地域名産の小松菜やほうれん草）」を添えて食するうどんのこと。

Stop5 空堀川：河床には上総層群最上部の地層が見られ、生痕化石を観察することができた。さらに上流では大正時代から昭和40年代まで使用されていた村山大島紬の絹糸水洗場があった場所を観察した。

Stop6 吉祥院本堂裏の露頭：吉祥院は狭山丘陵の縁にある段丘面に建てられたお寺で、市街地や

遠くには富士山などの山々が見られる好眺望地に位置する。本堂の裏で狭山層に介在する狭山ゴマシオ火山灰層（SGO テフラ）を観察した。この場所では層厚が 50 cm ほどであったが、狭山丘陵の保存の良い場所では層厚が約 1m あり、堆積年代は 1.6 Ma のフィッシュン・トラック年代が報告されているとのこと。最後に訪れた Stop12 野山北公園小道沿いでも SGO テフラが露出し、そこではテフラをサンプリングすることができた。SGO テフラの上位に位置する砂質泥炭層からは大型の植物化石としてクルミの実や、ブナ類の葉が多く産出し、亜高山帯の気候であったことを示す古植生が見られるとの話があった。

Stop7 軽便鉄道トンネル群：大正から昭和にかけて多摩川の水を村山貯水池に送る導水管工事と貯水池建設のために羽村山口軽便鉄道が造られ、建設物資を運ぶ重要な役割を果たした。昭和 19 年に廃線となったが、トンネルは現在、遊歩道として使われている。トンネルの外の気温は 34℃だったが、案内者の温度計で壁面を測定したところ、その温度は 23℃であった。しばし涼しむことができた。トンネル出口に露頭があり、SGO テフラより数 m 上位に位置する砂層を観察。生痕化石がま

ばらに確認できたが、鉄分の酸化により部分的に薄い赤褐色になっていた。

Stop10 大多羅法師の井戸：「だいたらぼっち」という巨人が歩いた足跡であるという言い伝えのある井戸を見た。このような名称の井戸が狭山丘陵では他にも数ヶ所あるとのこと。

Stop11 横田子之権現社北側の多摩ローム層の露頭：この露頭は赤褐色の硬いローム層であった。まだあまり研究されていないとのこと。この露頭へ行く途中で狭山層の上総層群上位にある芋窪礫層上部が見られた。粘土混じりの風化した礫層であった。15 時頃に武蔵村山市歴史民族資料館近くで解散した。

今回の巡検では玉川上水や狭山丘陵を初めて訪れた人が多く、案内者からの丁寧な説明に参加者は酷暑にも関わらず最後まで熱心に露頭の観察や解説に耳を傾けた。また、狭山丘陵の露頭観察では SGO テフラが鍵層となり、今回観察した狭山層の堆積状況などとても興味深かった。観察地点ごとに常に活発な質問や議論がなされ、とても有意義な巡検であった。最後になったが、猛暑の中、案内していただいた宇津川喬子氏、福嶋 徹氏、小森次郎氏、内記昭彦氏に感謝する次第である。



Stop7 地点での露頭観察風景（撮影：小森次郎）

◆領域3 主催巡検「入間川沿いに露出する下部更新統仏子層の観察」開催・参加報告

納谷友規（産業技術総合研究所）

2023年12月16日に領域3主催の巡検「入間川沿いに露出する下部更新統仏子層の観察」が開催されました。元々この巡検は9月に行われた2023年大会（早稲田大学所沢キャンパス）の専門巡検として企画されましたが、巡検当日、台風12号から変化した熱帯低気圧が本州の南を通過した影響により関東地方は大雨に見舞われ、中止を余儀なくされました。本巡検は中止となった2023年大会専門巡検を順延して季節を変えて実施されたものです。会員からの参加を募りましたが、非会員の学生の参加を可能としました。その結果、

これから本格的に地質学を学んでみたいという地球科学専攻の学部生、古生物学に興味がある生物学専攻の学部生から、長年第四紀学を研究してきた各分野のベテラン研究者までの幅広い層から、定員20名を満たす参加申し込みがありました。当日の参加者は応募参加者19名（1名はやむを得ない事情で参加を辞退）、案内者2名、アシスタント2名の計23名で、12月としては異常とも言える日中20℃を超える陽気に恵まれ、無事巡検を実施することができました。以下、参加者の北沢俊幸さんによる参加報告です。

巡検参加報告

北沢俊幸（立正大学地球環境科学部）

2023年12月16日（土）に開催された第四紀学会巡検・領域3（層序と年代基準）主催の巡検「入間川沿いに露出する下部更新統仏子層の観察」に参加した。当日の天気は晴れ、季節外れの暖かさに上着を脱ぐほどであった。参加者は19名で、案内は産業技術総合研究所の納谷友規氏と水野清秀氏にして頂いた。西武池袋線仏子駅に集合し、仏子層の露頭を観察しながら入間川を遡り、下位の飯能層との境界まで一駅分歩いて元加治駅で解散、という流れであった。駅からのアクセスが良く、露出も良好であることから巡検に適したルートだと思ったが、納谷氏によれば露頭状況は大きく変化しており以前より観察しづらくなっているとのことであった。

対象の仏子層は、関東平野西縁丘陵部に露出す

る下部更新統（約2.5～1.4 Ma）である。今回の巡検の元になっている主要なデータは納谷・水野（2020）にまとめられている。関東ではおなじみの上総層群～下総層群の深海から浅海にいたる環境変化の中で、内陸の関東平野西縁では上総層群堆積時にすでに淡水・浅海層が堆積しており、下総層群に先行する形で低地の形成が始まっていた。仏子層はその最初期にあたる地層で、第四紀はじめの浅海層を見ることができる貴重な地層である。納谷・水野（2020）で示された8層の海成層のうち、今回の巡検では下部の6層を含む層準を上から順に観察した。最下部では仏子層の下位にあたる礫質の飯能層との境界まで見られたので、いわば関東平野のなりたちについて最古の記録まで時代を遡ったことになる。



Stop1.
陸成層に挟まれる海成層、いくつかの広域テフラ層、材化石、オオバタグルミなどの植物化石、生痕化石など見どころが多い。



Stop4.
ドラマ撮影のため足早に通り過ぎる参加者。露頭も河床地形も面白いので少し残念。

今回観察した層準は MIS 80 ~ 100 あたりに対応するが、例えば北陸地方の谷口テフラに対比される広域テフラにより MIS 89 の海成層だと特定できたものもあり、詳細な議論が可能になっている。また、珪藻化石から古環境が精密に復元されており、海成か陸成かすでに決着がついている。案内者の納谷氏と水野氏の専門性の組み合わせだからこそ成し得た成果だと言えよう。ただし海か陸かは分かっているが堆積環境が（少なくとも私には全く）分からない堆積相も見られ、研究対象としてまだまだ面白いフィールドであるとも感じた。

参加者の中には以前にこの地域で調査をしたことがあるというベテラン研究者もおられ、露頭では化石を発見したりそれぞれの専門的見地からも解説があり大変勉強になった。学生や露頭観察に

あまり馴染みのない参加者も多いようだったが、経験値に関係なく和気あいあいとした雰囲気であった。途中、メインの露頭であり集合写真の予定地でもあった Stop4 がドラマ撮影のためほとんど観察できないという予想外の展開があったが、全体としては大きなトラブルもなく予定通りルートを見終えることができた。ひとえに巡検案内者の納谷友規氏・水野清秀氏、アシスタントの高橋幸士氏・羽田裕貴氏（いずれも産業技術総合研究所）の準備・先導のおかげであり、感謝申し上げます。

文献

納谷友規・水野清秀（2020）埼玉県加治丘陵に分布する下部更新統仏子層の層序と年代の再検討．地質学雑誌，126，183–204．



川から上がって橋の上で集合写真

◆ 2023 年度第 3 回評議員会の案内

以下の内容で、第 3 回評議員会が開催されます。

日時：2024 年 3 月 21 日（木）9:00～12:00

方法：Zoom を用いたオンライン会議

議事内容（予定）：2023 年度事業中間報告・会計中間報告ほか

評議員会メンバーの方には、後日メーリングリストにて詳細内容をご連絡いたします。なお、会長経験者・名誉会員の方には、今回は個別の案内を差し上げませんので、評議員会に参加される方は、3 月 19 日（火）までに下記庶務委員会まで電子メールにてご連絡をお願いします。

メールアドレス：shomu(at)quaternary.jp [(at) の部分を @ に変えて送ってください。]

(庶務委員会)

◆日本第四紀学会 2023 年度第 4 回執行部会議事録

日 時：2023 年 12 月 15 日（金）9:00～12:45

方 法：Zoom システムを用いたオンライン会議

出席者：鈴木毅彦（会長）、北村晃寿（副会長）、須貝俊彦（副会長）、山田和芳（庶務委員長）、荻谷愛彦（編集委員長）、堀 和明（会計委員長）、那須浩郎（広報委員長）、池原 実（行事委員長）、吾妻 崇（領域 2 代表）、小荒井 衛（領域 5 代表）

欠席者：白井正明（渉外委員長）、横山祐典（領域 1 代表）、里口保文（領域 3 代表）、海部陽介（領域 4 代表）

主な報告事項

- (1) 日本地球惑星科学連合（JpGU）第 29 回学協会長会議が 2023 年 12 月 5 日にオンライン開催され鈴木会長が参加した。今期幹事会メンバーになったことが報告された。
- (2) 転載許可申請 1 件の承認を報告した。
- (3) 2023 年度学会賞選考委員会委員、論文賞選考委員会委員、名誉会員選考委員会委員、法務委員会委員へ委員委嘱の連絡を行った。
- (4) 科学技術振興機構（JST）が運営する文献データベースに日本第四紀学会講演要旨集（52、53）の収録を承認したことが報告された。
- (5) 日本古生物学会の和文機関誌「化石」と同名の国際誌の刊行について注意喚起の通知があったことが報告された。
- (6) 2023 年度第 1 回目の事務局委託経費等の請求書を確認し、支払いを承認した。
- (7) 「第四紀研究」第 62 巻第 4 号（総説 1 編、資料 1 編、書評 2 編）を 11 月 1 日に発行し、会員

に配付した。また、受理済み論文 4 編について、J-STAGE で早期公開を行った。このうち、特集号掲載予定の 2 編は J-STAGE 認証を当初から解除した。なお、通常号論文は従来どおりエンバーク期間を設定した。

(8) 第 4 回編集委員会（メール会議）を 11 月 23 日～30 日に開催した。編集状況は、通常号：受理前 6、受理済 3、特集号：受理前 7、受理済み 6 である（いずれも書評・シンポ趣旨を除く）。

(9) 2023 年 11 月 30 日に開催された J-STAGE data オンラインユーザ会（JST 主催）に荻谷編集委員長が出席して、他学会等の利用状況について情報収集した。

(10) 「第四紀研究」第 63 巻第 1 号より帯色を変更することが報告された。

(11) 第四紀通信第 30 巻第 4 号の発行、および電子版（PDF 版）を学会ホームページに掲載した。

(12) 今期中に実施する学会ホームページリニューアルのための準備状況が報告され、次回執行部会にて案を提示して審議することとした。

(13) 2023 年日本第四紀学会学会賞・学術賞受賞記念講演会を 2024 年 2 月 17 日（土）午前 9 時 30 分から Zoom システムを用いてオンライン開催することが報告された。あわせて各受賞講演者の講演タイトルについても報告され、学会ホームページおよび会員メーリングリストで広報することとした。

(14) 2024 年 8 月 29 日～9 月 2 日に開催する 2024 年仙台大会についての準備状況が堀大会実行委員長から報告された。同大学で行われた他学会大会の開催状況を確認しながら会場の精査を進

めるとともに、9月2日専門巡検が栗駒山方面となることや、普及講演会会場について駅至近の場所にすることなどの検討をおこなっている報告があった。大会実行委員会および行事委員会によって順次詳細内容が決定次第、学会ホームページおよび会員メーリングリストを通じてその内容を告知することとした。

(15) 2025年大会は島根大学にて開催予定であることが報告された。

(16) 日本地球惑星科学連合 (JpGU) 2024年大会 (2024年5月26日～31日) において、開催セッションが公開された。本会では、以下の5件について学協会セッション (主催、共催) とした。H-QR05 第四紀：ヒトと環境系の時系列ダイナミクス、U-03 人新世・第四紀の気候および水循環、A-HW22 流域圏生態系における物質輸送と循環：源流から沿岸海域まで、H-DS09 人間環境と災害リスク、S-SS11 活断層と古地震。

(17) 領域1が進めている堆積物記載の“特訓”企画 (開催日：2024年2月1日～4日、場所：高知大学海洋コア国際研究所) について、参加希望者数を含めた準備状況が報告された。

(18) 領域3が進めている巡検「入間川沿いに露出する下部更新統仏子層の観察」 (開催日：2023年12月16日) の準備状況が報告された。

(19) その他各領域の活動状況について報告があった。

主な審議事項

(1) 終身会員 (シニア会員) 制度導入に向けて、国内の他学会の状況を整理したものをベースに議論した。年会費を割引する制度ではなく、一括納入して終身会員にする方向性にする事としたが、金額や年齢、会員歴などの条件について次回執行部会にてさらに検討することとした。また、一度退会した元会員の再入会後の終身会員制度についても検討することとした。2024年総会での審議に向けて準備するスケジュールを進めることが承認された。

(2) 学会設立70周年に関する記念事業のひとつとして進めている出版本の編集体制と出版計画について須貝出版本編集委員長により詳細な説明が行われ、各内容について議論した。出版本は朝倉書店が出版している「図説『日本の○○』」シリーズのひとつとして、日本第四紀学会監修によるビ

ジュアルな普及啓発本とすること。タイトルを図説『日本の自然史—第四紀の人と環境 (仮題)』として出版社に提案すること。日本列島と周辺海域を主対象とした第四紀研究の成果を平易に紹介する内容として第1部で概説、第2部で地域を分けて80程度の項目とすること。出版本編集委員について、分野を網羅的に補完するため、田村 亨 (前領域1代表)、堀 和明 (前領域2代表)、工藤雄一郎 (領域4元代表)、百原 新 (領域4)、植木岳雪 (領域5元代表) 各会員を追加すること。当面2025年秋出版とすべく出版スケジュールを組み、具体的な項目や執筆者については2024年1月ごろに出版本編集委員会を開催すること、2024年3月初旬には執筆依頼できるようにすることが承認された。今後、朝倉書店との印税の取扱、学会予算サポートを含めた契約の詳細をつめることとして、適宜執行部会にて確認、承認していくこととした。

また、2026年にむかえる学会設立70周年に関する記念事業に一体感を持たせるべく、出版本に紐づけた講演会や博物館でのイベントと連動する包括的な取り組みをする方向性を確認した。

(3) 会長、副会長の議決権に関する会則の改正についての原案を執行部会で承認した。今後評議員会と2024年度総会で諮るスケジュールを確認した。

(4) 国際土壌学会議構成学会 (IUSS) から依頼されている中間会議 (開催日：2024年10月、開催地：中国南京) への代表派遣および名誉会員候補評議員の推薦は行わないことが承認された。

(5) 10年を超えた庶務資料の処分方法について、庶務委員会提案どおり承認された。

(6) 70周年記念行事特別委員会 (時限付委員会) の評議員会承認のための準備を進めることが承認された。

(7) 学会のZoom契約状況について懸案事項の整理をおこなった。審議の結果、2024年8月以降の大規模ミーティングの契約方法や、契約者について継続審議とした。

(8) 2024年3月25日 (月) に開催予定の防災学術連携体第18回防災学術連携シンポジウム (テーマ：人口減少社会と防災減災) について学会から講演者を出す方針が承認され、関連分野の会員 (中塚 武会員を第一候補) に打診することとした。

以上

★★★ 情報発信を希望される方へお願い ★★★

日頃から日本第四紀学会のコミュニティへ情報提供くださり、ありがとうございます。
提供された情報の円滑な配信を目指して、広報委員会から皆様へ、以下のお願いを致します。

- (1) 情報発信の手段として、ML の積極的な使用をお願い致します。
 - 1) メール本文に配信内容のタイトルと簡単な情報を書いて広報委員会アドレス (jaqua-koho(at)quaternary.jp) へご投稿ください。
メール本文の情報は常識的な長さでお願い致します。
 - 2) 広報委員会にて文言の微修正を行う、または投稿した方に情報の修正・追加をお願いすることがあります。
 - 3) イベント等の周知などで当該イベントの URL がある場合、その URL も載せてください (ただし上記の通り、メール本文にも簡単な情報も載せるよう、お願い致します)。
 - 4) 第四紀学会にほとんど関連しないものについては配信をお断りすることがあります。
 - 5) 学会、研究集会のお知らせでも、第四紀学会の会員間で参加費等に不平等が生じるものは配信しませんので、ご了承ください。
 - 6) 添付ファイルは ML に配信致しません。

(2) 第四紀通信への掲載依頼、日本第四紀学会 HP への掲載依頼も受け付けておりますが、基本的に、主催・後援イベントなど第四紀学会として会員に広く周知する必要があると認められる情報、「公募・助成」情報(こちらは HP のみの掲載となります)等に限られます。詳しくは広報委員会アドレス宛に、個別にご相談ください。

(3) 第四紀通信の表紙用の写真(または作成した画像)を受け付けています。詳細は第四紀通信第 27 巻 6 号の巻末をご覧ください。

(4) 第四紀通信は 2 月・5 月・8 月・11 月の初旬に刊行予定としていますが、情報をなるべく早く皆様にお届けできるように、版下が完成した段階でホームページに掲載していますので、ご利用ください。

日本第四紀学会広報委員会：那須浩郎・田村 亨・石村大輔・竹下欣宏・三田村宗樹
広報書記：岩本容子・奥村公弥子
日本第四紀学会ホームページ <http://quaternary.jp/> から第四紀通信バックナンバーの PDF を閲覧できます。

日本第四紀学会事務局
〒169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号 新宿ラムダックスビル
株式会社春恒社 学会事業部内
E-mail : daiyonki(at)shunkosha.com 電話 : 03-5291-6231 FAX : 03-5291-2176